

授業科目名	リコーダー合奏 B	担当形態	演習		
		開講学期	秋学期		
担当教員	大西 宣人	単位	1	年次	1

### ＝授業のテーマ及び到達目標＝

ソプラノリコーダー（バロック式、ジャーマン式）、アルトリコーダー（バロック式）の実技演習を、ギーズベルトの教本を用いて行い、初歩の曲の演奏の技術を習得する。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

ソプラノリコーダー、アルトリコーダー共にバロック式を持参のこと。  
ギーズベルトの教本を主にアンサンブルの曲を曲併用し合奏をする。

### ＝授業の概要＝

楽器演奏法は、教本からだけでは理解しにくい。

名著「ギーズベルトリコーダー教本」にそって授業内で説明、正しい実演をし、受講生に演奏をさせ、奏法や指導法を身につけることを主眼目とする。

### ＝授業計画＝

- 第 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 第 2回 バロック式、ジャーマン式の奏法の相違（運指の長所、短所）
- 第 3回 タンギング、スラーの奏法（舌突の有無）
- 第 4回 リコーダーによるピチカート（タッピング練習）
- 第 5回 フレーズとブレスの関係（有効なブレス位置）
- 第 6回 ポルタート、ノンレガート、スタッカートの奏法（音の長さの違い）
- 第 7回 低音のタンギング(du,dhu)
- 第 8回 トリル及びそれに伴う替指（なめらかな終結音への連結）
- 第 9回 ダブルホールのスムーズな運指（右薬指小指の動き）
- 第 10回 クロマティック（クロスフィンガー）
- 第 11回 最高音域（息の強さ、アタック、サミングホールのコントロール）
- 第 12回 装飾法について（モルデント、トリラ他）
- 第 13回 独奏のためのテクニック（フレージング、アーティキュレーション）
- 第 14回 合奏（アンサンブル）
- 第 15回 独奏による試験

### ＝テキスト（必携）＝

NO.1

書籍名：ギーズベルトリコーダー教本

著者名：F. J. ギーズベルト

出版社：日本ショット株式会社

NO.2

書籍名：ソプラノ・アルト・テナー・バスリコーダーのリコーダー教本

著者名：F. J. ギーズベルト

出版社：日本ショット株式会社

**=参考書・参考資料（必携）=**

なし

**=成績評価の方法と評価の基準=**

試験は、講義の最終日に、ソプラノリコーダー・アルトリコーダーによる各1曲ずつの独奏曲をあてる。

成績は、出席状況、授業態度、試験結果を考慮して評価する。

出席状況に加え、技術や表現力がS評価、特に問題がない場合はA・B評価。ただし欠席、遅刻が著しい場合、授業の妨害行為などが認められる場合は、C・D評価もある。

**=その他=**